（6） い ち ご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 萎黄病 *Fusarium oxysporum* f. sp. *fragariae*	1. 萎黄病は栄養繁殖伝染と土壌伝染を行うので、無病苗を無病地で栽培する。 2. 発病を認めた圃場からは親株を取らない。 3. 苗床の連作を避ける。 4. ハウス密閉による高温土壌消毒をする。 5. 発病株は早めに抜き取り、処分する。 6. 子苗伝染防止に第２複葉期の挿し苗育苗が有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●仮植前 1. 移植後の寒冷被覆等は十分活着するまで延長する。 ●移植時 1. 地温の高い時期（20℃以上）に処理する。 2. 本病対象に防除を実施しているところでは、萎凋病の発生が少ない。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロピクテープ
			－	クロルピクリン錠剤
			－	キルパー
			－	ガスターード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－・－	（混）ソイリーン
			－・－	（混）ダブルストッパー
			－・－	（混）ディ・トラペックス油剤
		仮植前	1	トップジンＭ水和剤
			1	ベンレート水和剤
		移植時	1	トップジンＭ水和剤
			1	ベンレート水和剤
2 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1. 枯葉は除去し、埋没する。 2. 排水を良好にする。 3. 発病果は早く除去する。 4. 多湿にならないよう換気する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 発病後の散布は効果がでにくいので予防散布する。 2. サンヨールはアブラムシ類、ハダニ類にも登録がある。	発病前	2	ロブラール水和剤
			2	ロブラール５００アクア
			2	スミレックス水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	パレード２０フロアブル
			7	カナメフロアブル
			9	フルピカフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			12	セイビアーフロアブル２０
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			19	ポリオキシンＡＬ水溶剤
			－	サンヨール
			52	アイーナ20フロアブル
			M4	オーソサイド水和剤８０
			BM2	（生）ボトキラー水和剤
			BM2	（生）エコショット
			10･1	（混）ニマイバー水和剤
			7･9	（混）ピカットフロアブル
			U13･9	（混）ショウチノスケフロアブル
			17･12	（混）ジャストミート顆粒水和剤
			M7･17	（混）ダイマジン
			M7･50	（混）ラミック顆粒水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	2	ロブラールくん煙剤
			2	スミレックスくん煙顆粒
			9	フルピカくん煙剤
		ハウス内防除（ダクト内投入）	BM2	（生）ボトキラー水和剤
3 うどんこ病 *Sphaerotheca aphanis* var. *aphanis*	1. 育苗期に徹底的に防除する。 2. 葉かぎをする。 3. 発病果は早く除去する。	親株床初期	M2	イオウフロアブル
			M1･M2	（混）園芸ボルドー
		育苗期（本圃定植前）	M7	ベルクート水和剤
			M7･19	（混）ダイアメリットＤＦ
		定植前苗浸漬	－	サンヨール
		発病前	M2	硫黄粉剤８０
			10･1	（混）ニマイバー水和剤
		発病初期	3	セーフガード乳剤
			7	カナメフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

いちご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
	〈薬剤使用の特記事項〉 1.育苗期にローテーション防除を行い、本圃に持ち込まない。 2.水和硫黄剤（イオウ、クムラス、コロナ、サルファー）は開花期以降は使用しない。 3.サンヨール、サプロール乳剤、モレスタン水和剤、水和硫黄剤（イオウフロアブル、クムラス、コロナフロアブル、サルファーゾル）、アミスター20フロアブルは高温時には薬害が出やすいので注意する。 4.サンヨールはアブラムシ類、ハダニ類にも登録がある。 5.ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 6.耐性菌対策については野菜参考３参照。 7.エコピタ液剤は予防効果はあまり期待できないので発生を見て、７日間隔の連続２回散布をする。また他剤とのローテーション散布をする事で、より効果が発揮される。	初発後ただちに ５～７日おき	3 3 3 3 3 3 7 7 7 7 9 11 11 11 19 19 50 52 － M2 M2 M2 M2 M7 M7 M10 BM2 － － － － U6･3 7･9 11･7 U13･9 M7･11 M7･17 M7･19 M7･50 M7・53	トリフミン水和剤 ルビゲン水和剤 ラリー水和剤 ラリー乳剤 サンリット水和剤 サプロール乳剤 アフェットフロアブル パレード２０フロアブル ネクスターフロアブル ケンジャフロアブル フルピカフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル スクレアフロアブル ポリオキシンＡＬ水和剤 ポリオキシンＡＬ水溶剤 プロパティフロアブル アイーナ２０フロアブル サンヨール イオウフロアブル クムラス コロナフロアブル サルファーゾル ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル モレスタン水和剤 （生）ボトキラー水和剤 ムシラップ エコピタ液剤 サフオイル乳剤 ピタイチ (混)パンチョＴＦ顆粒水和剤 (混)ピカットフロアブル (混)シグナムＷＤＧ (混)ショウチノスケフロアブル (混)ファンベル顆粒水和剤 (混)ダイマジン (混)ダイアメリットＤＦ (混)ラミック顆粒水和剤 フセキワイドフロアブル
		ハウス内防除 （くん煙）	3 9 M2 U6･3	トリフミンジェット フルピカくん煙剤 硫黄粒剤 (混)パンチョＴＦジェット
		ハウス内防除 (ダクト内投入)	BM2	（生）ボトキラー水和剤
4 疫病 *Phytophthora nicotianae* *P. cactorum* *P.* sp.	1.親株は無病の専用株を用いる。 2.排水を良好にして過湿を避ける。 3.育苗床高設にし、地面と隔離する。または高畦にし畝間に水がたまらないようにする。 4.発病株は見つけしだい除去し、処分する。	育苗期	21 40 U17 M3･4	ランマンフロアブル レーバスフロアブル ピシロックフロアブル (混)リドミルゴールドＭＺ
		生育期	21 40	ランマンフロアブル レーバスフロアブル

いちご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
5 炭疽病 *Glomerella cingulata* *Colletotrichum acutatum* *C.fioriniae* *C.nymphaeae*	1.罹病苗は用いない。 2.排水を良好にして過湿を避ける。 3.潅漑水は水道水等清潔なものを用いる。 4.親株は無病の専用株を用いる。 5.苗床は雨よけする。 6.発病株は見つけしだい除去し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●育苗期または本圃定植後 1.地温の高い時期（20℃以上）に処理する。 ●発病初期 1.特に苗床で十分防除する。 2.アミスター20フロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	仮植前	1	ベンレート水和剤
		仮植栽培期間	M3 M3	アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤
		育苗期	M1 M1 M1 M7 M9	キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル ＩＣボルドー６６Ｄ ベルクート水和剤 デランフロアブル
		育苗期または本圃定植後	1	ベンレート水和剤
		定植前	10･1	（混）ゲッター水和剤
		発病初期	11 12 M4 M7 10･1 BM2	アミスター２０フロアブル セイビアーフロアブル２０ オーソサイド水和剤８０ ベルクートフロアブル （混）ニマイバー水和剤 （生）タフパール
6 根腐病 *Phytophthora fragariae*	1.無発病地で育苗する。 2.圃場の排水を良好にする。 3.露地栽培ではマルチを行う。 4.除去した病葉は放置せず、ただちに処分する。	定植時	4	リドミル粒剤２
7 芽枯病 *Rhizoctonia solani*	1.土が葉や芽にかからないようにする。 2.圃場の排水を良好にし、多湿を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.特に苗床で十分防除する。	発病初期	M4	オーソサイド水和剤８０
8 じゃのめ病 *Mycosphaerella fragariae*	1.圃場の排水を良好にし、多湿を避ける。 2.被害茎葉は集めて直ちに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ジマンダイセンはアルカリ性薬剤との混用及びボルドー液等との７日以内の近接散布は避ける。	仮植栽培期	M3	ジマンダイセン水和剤
		発生初期	3	トリフミン水和剤
9 ハダニ類	1.葉かぎをし、かいだ葉は必ず持ち出す。 2.乾燥させないようにする。 3.周辺雑草の防除をする。 4.周辺にナス科作物、サトイモ、インゲンマメ等を栽培しない。 5.ダニがえしを設け、かえしの裏の部分に粘着剤を塗布する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ビニール被覆前に防除を徹底する。 2.ハウス栽培において、ミツバチの活動に影響を及ぼすおそれがあるので注意する。 3.ピラニカＥＷ、ムシラップはアブラムシ類にも登録がある。 4.サンマイトフロアブルはチャノホコリダニ、シクラメンホコリダニにも登録がある。 5.コテツフロアブル、コロマイト水和剤、スターマイトフロアブルはシクラメンホコリダニにも登録がある。	仮植前（親株床）	6 6	コロマイト乳剤 アグリメック
		育苗期	1B 6	トクチオン乳剤 アグリメック
		育苗期～開花前まで	13	コテツフロアブル
		育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
		定植前苗浸漬	-	エコピタ液剤
		発生初期	6 6 10A 10B 12D 20D 21A 21A 21A 25A 25A 25B 30 33	コロマイト水和剤 アファーム乳剤 ニッソラン水和剤 バロックフロアブル テデオン乳剤 マイトコーネフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカＥＷ サンマイトフロアブル ダニサラバフロアブル スターマイトフロアブル ダニコングフロアブル グレーシア乳剤 ダニオーテフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

いちご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		発生初期	UNM	トモノールS
			-	ムシラップ
			-	エコピタ液剤
			-・5	（混）ダブルシューターSE
			-・-	（混）デュアルサイド水和剤
			25B・21A	（混）ダブルフェースフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	3A	テルスタージェット
			3A	マブリックジェット
			3A	ロディーくん煙顆粒
10 アブラムシ類	1.育苗期には不織布等による被覆を行う。 2.本圃ビニール被覆後にビニール開閉部分に防虫ネット（1㎜目合以下）をはる。 3.ハウスの周囲、苗床にシルバーテープをはる。 4.施設内、周辺の雑草処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象にベストガード水溶剤で防除を実施しているところでは、アザミウマ類の発生が少ない。 2.サフオイル乳剤は、乾きにくい条件下では薬害のおそれがあるので散布を控える。オーソサイド水和剤80およびデランフロアブルとの混用はさけ、近接散布する場合には少なくとも28日以上あける。	育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
			28	ベリマークSC
		定植時	4A	モスピラン粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		生育期（定植後30日まで）	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	23	モベントフロアブル
			28	ベネビアOD
			29	ウララDF
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	マブリック水和剤20
			3A	アーデント水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			1B	マラソン乳剤
			9B	チェス顆粒水和剤
			-	エコピタ液剤
			-	ピタイチ
			-	サフオイル乳剤
		ハウス内防除（くん煙）	3A	マブリックジェット
			4A	モスピランジェット
11 アザミウマ類	1.ハウス開口部に防虫ネット（1㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 2.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 3.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマなど）の要防除密度は、「寄生成虫数が100花当たりで10頭になった時」または「成虫の寄生花率が10%になった時」である。 2.ファインセーブフロアブルはヒラズハナアザミウマに対しては効果が劣るので注意する。	育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
			28	ベリマークSC
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナSC
			15	カスケード乳剤
			15	マッチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	グレーシア乳剤
			34	アベンジャーフロアブル
			34	ファインセーブフロアブル
			-	ピタイチ
			-・5	（混）ダブルシューターSE
12 ミカンキイロアザミウマ		育苗期～開花前まで	13	コテツフロアブル
		発生初期	1B	マラソン乳剤
			3A	アーデント水和剤
			15	マッチ乳剤
			15	アタブロン乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

いちご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
13 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 3.圃場周辺の雑草処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベネビアＯＤは薬害のおそれがあるので展着剤は加用しない。	育苗期後半 ～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		育苗期 ～開花期まで	13	コテツフロアブル
		発生初期	5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	サブリナフロアブル
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ロムダンフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			22A	トルネードエースＤＦ
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルベイト
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベネビアＯＤ
			28	ヨーバルフロアブル
			UN	プレオフロアブル
14 オオタバコガ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。	発生初期	22A	ファイントリムDF
			28	ヨーバルフロアブル
			UN	プレオフロアブル
15 コガネムシ類幼虫	1.発生の少ない圃場では、被害株の周辺を掘り起こして幼虫を捕殺する。 2.コガネムシ類の産卵場所になるので、堆肥や有機物の野積みは控える。	仮植床植付時	1B	カルホス粉剤
			1B	カルホス微粒剤Ｆ
			1B	トクチオン細粒剤Ｆ
		仮植床植付後	1B	カルホス乳剤
16 コナジラミ類	1.施設栽培では苗による持込みに注意する。 2.ハウス内及び周辺の雑草処理を徹底する。 3.ハウス内では黄色粘着トラップを使用する。 4.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり､成虫の飛来を軽減する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。	育苗期後半 ～定植当日	23	モベントフロアブル
			28	ベリマークＳＣ
		定植時	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			9B	チェス顆粒水和剤
			21A	サンマイトフロアブル
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			28	ヨーバルフロアブル
			－	エコピタ液剤
			-･5	（混）ダブルシューターＳＥ
17 チビクロバネキノコバエ	1.有機質資材の施用は成虫の誘引や産卵を促すので、完熟堆肥を適正に施用する。 2.苗による持ち込みを注意する。 3.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり､成虫の飛来を軽減する。 4.枯れた葉等は早めに除去し、クラウン部を乾燥させる。	1番花の開花まで	21A	ハチハチフロアブル
		発生初期	4A	ベストガード水溶剤
			28	ベネビアＯＤ
		生育期	4A	ベストガード粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

いちご

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
18 野そ	1.防除の方法はⅢ－19．野その防除の項参照。			
19 イチゴメセンチュウ イチゴセンチュウ	1．健全な苗を用いる。			
20 ネグサレセンチュウ	1.ポット育苗する。 2.イネ科作物やアブラナ科作物との輪作を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒の方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.ディ・トラペックス油剤はセンチュウ類に登録がある。	土壌消毒	8A･8F 8A･8B 8A･8B	(混)ディ・トラペックス油剤 (混)ソイリーン (混)ダブルストッパー
		定植前	1B	ネマトリンエース粒剤
21 ナメクジ類	1.除草や残さ処理などにより、多湿で有機物の多いほ場環境を避ける。	発生初期	－	ナメクリーン3